

校内研究

校内研究を充実させ、指導力の向上を目指しましょう

研究を更にステップアップさせるために、これまでの取組を点検してみましよう。

研究の目的

- ① 全体会を設定し、校内研究の目的や内容について共通理解を図っている。

研究主題の設定

- ② 主題設定の理由が明確に示され、主題、副題、研究仮説や視点について一貫性がある。
- ③ 目指す子どもの姿が具体的で明確になっている。★1参照（P19）
- ④ 副題について、研究主題を受けて強調する指導法や教科・領域等の関連などを示している。

主題設定の理由

- ⑤ 子どもや学校、地域の実態や課題を述べている。
- ⑥ 教師の願いを述べている。
- ⑦ 前年度（これまで）の成果と課題を反映している。★2参照（P20, 21）

研究内容

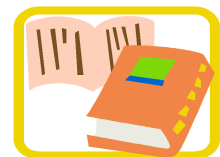
- ⑧ 教科・領域、分野、学習過程などを限定し、焦点化を図っている。
- ⑨ 具体的な方法、手だて、手順、指導内容を明示している。
- ⑩ 各教科の努力点や具体的方策について、研究主題を受けた内容としている。

構想図

- ⑪ 研究内容や研究方法などを分かりやすく構造的にまとめている。
★3参照（P22）
- ⑫ 目指す児童生徒像や研究主題、年次計画などを盛り込んでいる。

仮説研究と視点研修を整理しましょう

★4参照（P23, 24）



仮説研究の場合

- ⑬ 以下の点について押さえている。

_____において、_____すれば、_____になるであろう。
(内容) (方法) (目的)

- ⑭ このような手だて（工夫）をすれば主題に迫ることができる仮説となっている。
- ⑮ 指導過程の中に、仮説を位置付けている。★5参照（P25）

視点研究の場合

- ⑯ 視点を設けて、その具体的な手だてを考えて実践している。
- ⑰ 具体的な手だてについて、指導過程の中に位置付けている。（2つ程度）
- ⑱ 有効な手だてについての共有化を図っている。

研究推進

- 19 校内研究について共通理解している。
- 20 PDCAサイクルを活用した研究を推進している。

例 指導案作成→指導案検討会→事前授業→授業研究→事後検討会→改善指導案の作成

- 21 校内研究を進めていく過程で、学年会（学年部会）や教科部会などの組織を生かし、協同体勢で取り組んでいる。

授業検討会

- 22 手だてに基づき、焦点化（参観のポイント等を示す）した検討会を行っている。
★6参照（P26, 27）
- 23 全員参加型（ワークショップ形式等）の検討会にするなど運営を工夫している。

研究の活性化

- 24 保護者の参観や校内研究だよりの配布等を通して、校内研究の周知を図っている。★7参照（P28）
- 25 外部講師やマンパワーの活用等による、研究の活性化を図っている。

課題のリレー

- 26 授業研究会の質的深まりを目指し、次の授業研究会につなげている。
★8参照（P29）

研究の検証

- 27 検証方法を確立している。
- 28 具体の評価規準を作成するなど、共通理解を図っている。
- 29 授業研究の成果を、日々の授業や教育活動に生かしている。

研究の振り返り

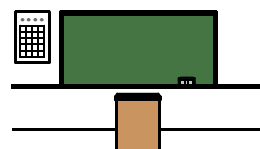
- 30 校内研究について自己評価を行い、次年度の研究に生かしている。

- ・ ★印については別紙参考資料があります。
- ・ 参考資料については、石巻小学校、門脇小学校、大街道小学校、矢本西小学校の校内研究の概要より抜粋してあります。
- ・ 下線や吹き出しは、宮城県東部教育事務所で加筆したものです。

いくつチェックできましたか。

チェックがつかない部分が、各学校における改善点と言えます。

○にするための取組や具体の改善策を考えて、より身近な研究へ推進していきましょう。



★1：目指す子どもの姿が具体的で明確になっている

＜東松島市立矢本西小学校の例＞

○研究を通して目指す児童像

	学年部仮説	目指す児童像	具体的な姿	指導の手立て
低学年部	めあてを持ち、語句を手掛かりに読みを進めれば、内容を正しく読み取ることができるであろう。	めあてを持って読み、書かれていることを捉えることができる子ども	読みのめあてを理解し、キーワードに着目して読み、感想を発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 読みの視点やキーワードを明確化 文章構成を明らかにする文図の活用
中学年部	語句を手掛かりに、段落や構成を意識した読みを進めれば、内容を正しく読み取ることができるであろう。	段落の内容や結び付きを考えながら読み取ることができる子ども	キーワードを手掛かりに、段落の内容を捉えることができる。接続語や指示語を手掛かりに、段落のつながりを捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵の活用 キーワード、指示語、接続語に着目した学習展開の工夫。 段落を視覚的に捉えさせる工夫
高学年部	語句に着目し、要旨の捉え方を意識した読みを進めれば、自力で読み取ることができるであろう。	自力で読み取り、要旨を捉え、自分の考えを持つことができる子ども	単元の目標に沿って学習の見通しを持ち、「手立て」や「言葉の力」を手掛かりに読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 指示語や接続語、重要語句を押さえた指導 「言葉の使い方」「言葉の力」の活用
特別支援部	視覚的な支援を工夫し、言葉と結び付ける学習を積み重ねていけば、文に親しむことができるであろう。	身近な人と相手や場を意識した会話ができる子ども 言葉に興味を持ち、挿絵、写真などを手がかりに、書かれていることを理解しようとする子ども	絵本を読み、その内容を理解して楽しむことができる。 簡単な文章を読んだり、話したり、書いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> スピーチを通して話したり聞いたりする学習を設定 経験したことを言葉で振り返り、絵日記で表現

- ◇学年部ごとに設定されている。(特別支援部の設定もある)
 ◇学年部仮説⇒目指す児童像⇒具体的な姿⇒指導の手立てが具体的に明記されていることにより、研究内容が分かり易くなっている。
 ◇具体的な姿が明記されていることにより授業研究会での検証(話し合い)が焦点化される。



**共通理解につながる
協同研究の推進につながる**

★2：前年度（これまで）の成果と課題を反映している

＜石巻市立石巻小学校の例＞

○研究の経緯（平成23年度～25年度）

<p>◆平成23年度研究主題 「食」を大切にする児童の育成 －生活科・総合的な学習の時間、給食の時間の指導を通して－</p> <p>＜主な研究内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童対象のアンケート調査の実施と考察 ・食育の視点を設けた生活科・総合的な学習の時間の単元の指導計画の作成、教材開発 ・食に関する指導規範の改善と継続指導 ・長期休業明けに行う「食生活チェックカード」の活用 ・「食育の日（19日）」「食に感謝する日（10・30日）」の放送実施 ・「食育だより」や本校ホームページで食育の活動について紹介 ・食育コーナーの設置 ・職員研修会の実施（講師：宮城教育大学 小金澤孝昭教授） <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の食育の目標と本校の目指す児童像にずれがあった。文部科学省の食育の目標に合わせて、目指す児童像を変更していく。※1 ・学校で学んだことを日常生活に生かすための手立てが足りなかった。家庭との連携を図っていく必要がある。※2 ・食事のマナーが十分に身に付かなかった児童がいる。適切な手立てを探りながら、継続して指導していく必要がある。※3 <p style="text-align: center;">課題をまとめ、その解決に向けて次年度の研究では、新たに研究内容を加えている。(追加分)</p>
<p>◆平成24年度研究主題 「食」を大切にする児童の育成 －生活科・総合的な学習の時間、給食の時間の指導を通して－</p> <p>＜主な研究内容＞ (追加分のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しと指導過程の工夫 ・食に関する指導の全体指導計画の作成 ※1 ・給食目標の見直しと給食の時間における食に関する指導の年間計画の作成 ・週3回の「もぐもぐタイム」の設定と実施 ・箸の持ち方指導(各学期2回) ※3 ・1・2年対象の食に関する読み聞かせの実施 ※3 ・ゲストティーチャーを招いた生活科・総合的な学習の時間の授業の実施 ・保護者対象のアンケート調査の実施と考察 ※2, 3 ・人材バンクの作成と活用 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では実践できていること「好き嫌いしないで食べる」「食事のマナーに気を付けて食べる」「食事の挨拶をする」が、家庭ではできていないことが明らかになった。毎日朝食を摂取している割合も91%で、変化が見られなかった。学級活動も研究領域に取り上げ、知識として習得したり体験を通して感じたりしたことがより実践へと結び付くようにする必要がある。また、家庭で取り組んでいただきたいことを具体的に呼び掛けていく必要がある。※ <p style="text-align: right;">※は前年度の課題の解決に特に関連が深いと思われる項目</p>
<p>◆平成25年度研究主題 「食」を大切にする児童の育成 －生活科・総合的な学習の時間、学級活動、給食の時間を中心とした指導を通して－</p> <p>＜主な研究内容＞ (追加分のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導関連教材一覧表の作成 ・食に関する指導の年間指導計画(各学年)の見直し ・学級活動における食に関する指導の実践、1時間ごとの学級活動指導案の作成 ※1 ・栄養教諭、養護教諭とのTT指導の実施 ・一汁一菜プロジェクトの1時間ごとの指導案の作成

- ・箸の持ち方指導（毎月1回）※
- ・給食の時間における食事の挨拶の実施 ※
- ・「生き生き石小っ子リーフレット」の作成・配付 ※
- ・「石小っ子カード」の作成と実施 ※
- ・学年懇談会で、食に関する話題を提供 ※

<課題>

- ・学級活動を研究領域に取り入れたことで、自分の心身の健康や命を見つめ、食生活や生活習慣を見直す姿が見られるようになってきた。研究領域を教育活動全体に広げ、相互に関連させることで、更に「食」に進んで関わっていくと思われる。研究領域を広げ※、研究構想図や目指す児童像も見直していく。また、「食」を大切にしている児童を育てる研究実践とその成果を広く紹介するために、次年度に自主公開研究会を行うことにする。
- ・食事の楽しさを味わわせるために、1・2年生、3・4年生、5・6年生で給食を食べる「なかよし給食」を設定する。
- ・給食目標を確認したり、生活習慣を見直したりする時間、箸の正しい持ち方を練習する時間を確保するために、月に2回「食育タイム」を設定する。
- ・より興味をもって「食育の日（19日）」「食に感謝する日（10・30日）」の給食時の放送を聞かせるために、健康委員会が考えたクイズを流すなどの工夫をしていく。

課題と次年度に向けた取組（研究の方向性や内容）の記述がある。<研究の継続性と深まり・広がり>

◆平成26年度研究主題

「食」を大切にしている児童の育成
—学校における食に関する指導と家庭・地域との連携を通して※—

<主な研究内容>

- ① 食に関する授業実践
 - ・食事の重要性や喜び、楽しさが分かる授業の工夫
 - ・健康によい食事のとり方が分かる授業の工夫
 - ・栽培・収穫・調理などの体験的な学習の実施
 - ・食文化に関わる読み聞かせや授業の工夫
 - ・指導案、ワークシート等の累積
- ② 給食の時間における指導
 - ・好き嫌いしないで食べたり、よくかんで食べたりするための指導
 - ・感謝の気持ちを育てる食事の挨拶の実施
 - ・「もぐもぐタイム」や「食育タイム」における食事のマナーに関する指導
 - ・「食育の日」と「食に感謝する日」の放送及び一口メモの活用
- ③ 学校と家庭・地域との連携
 - ・「生き生き石小っ子」リーフレットや「石小っ子カード」の改善と活用
 - ・長期休業明けに行う「食生活チェックカード」の活用
 - ・学習参観日における食に関わる授業の実施や懇談会での話題設定
 - ・食育だよりやホームページで学校の取組を家庭や地域に発信
 - ・食に関する知識や豊富な経験を有する人材の有効活用

<検証方法>

- ① 授業研究会における授業の様子
 - ・全校授業研究会・・・各学年部代表 <年3回>
(模擬授業を取り入れた事前検討会、実践授業、ワークショップ型事後検討会)
 - ・学年部授業研究会・・・各学年部代表 <年4回>
(学年部による事前・事後検討会、付箋による検証)
- ② 給食の時間の観察
- ③ 児童・保護者を対象にした実態調査の実施 <年2回+必要に応じて実施>
- ④ 「石小っ子カード」や「食生活チェックカード」の記録の見取り

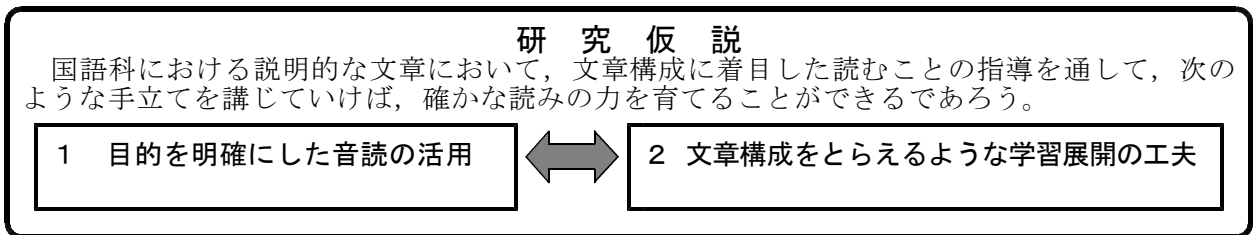
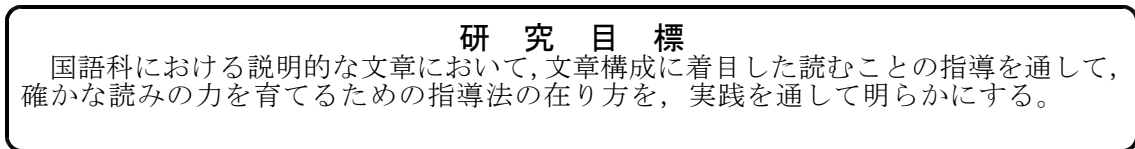
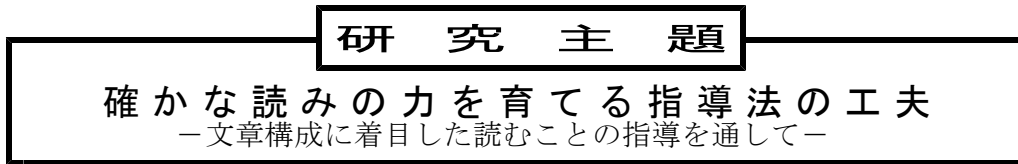
検証方法も具体的に記述されている。

★3：研究内容や研究方法が分かりやすく構造的にまとめられている

<東松島市立矢本西小学校の例>

⇒研究全体構想図に

①目指す児童像、②研究内容、③研究方法が明記されている。



目指す児童像

低学年部	中学年部	高学年部	特別支援部
めあてを持って読み、書かれていることを捉えることができる子ども	段落の内容や結び付きを考えながら読み取ることができる子ども	自力で読み取り、要旨を捉え、自分の考えを持つことができる子ども	身近な人と相手や場を意識した会話ができる子ども 言葉に興味を持ち、挿絵、写真などを手がかりに、書かれていることを理解しようとする子ども

② 研究 内 容	③ 研 究 方 法
目的を明確にした音読を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙に着目した音読指導 ・キーワードを見つけ出す音読指導 ・読み取りの視点を明確にした音読指導
文章構成をとらえるような学習展開の工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・文章構成図・文図を活用 ・学年の発達段階に応じて書く活動の導入 ・ノート指導を意識した板書
読み取ったことを分かりやすく話すための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた話型マニュアルの確立
児童の変容を確かめる	<ul style="list-style-type: none"> ・学力検査や意識調査の実施 ・児童の学びの跡を集約
研究成果の確かめ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集と整理 ・研究集録の作成

★4：仮説研究と視点研究を整理しましょう

＜石巻市立門脇小学校の例＞

参考資料1

視点研究を始める前に確認している！

○仮説研究と視点研究の違いについての確認（校長先生の資料から）

【仮説研究】 ※ 演繹法的手法

主題に沿って、一つの教育的手法について、その有効性を予想し、理論的追究や実践による試行錯誤の末に、その教育的手法の有効性に関する確信（仮説）を生み出し、更に、その確信に従って、意図的、計画的な実践と考察を積み重ね、その有効性を立証する研究手法と言えないか。

【視点研究】 ※ 帰納法的手法

主題に沿って、追究してみたい視点（研究活動の切り口・何のための視点かと言うことをはっきりさせておくことも重要）を定め、その視点に沿って、手立て（手立てを生み出した考え方やそれに基づく具体的な工夫点も併せて）を提案し合い、その一つ一つの手立ての有効性の有無とその根拠を明らかにすることを積み重ねていくことにより、何らかの真理（視点に沿った有効な教育的手法を生み出す考え方や具体等・原理）を導き出していく研究手法と言えないか。

「研究主題に迫るための、視点に関する基本的な考え（視点に沿った手だての工夫等。ここが曖昧な研究が多い）」に基づき、組織的実践を積み重ねていくことが重要になる。

- ①（ねらい・教材の特質・児童の実態等を考慮して）提案する実践の「切り込み方」としての考え（手立てを生み出すための考え方や生み出された手立てが有効になるであろうと考えた根拠等。）を明確にする。
- ② その考えを基に「手立てとして具体的にどんな工夫をするのか」「指導過程の中でどのように位置付けるのか」「手立ての有効性をどのように検証するのか」を明確にする。
- ③ 実践し、手立ての有効性を検証のための情報を収集する。
- ④ 実践から得られた情報を基に、手立ての有効性とその根拠を検討する。【有効性の有無・高低の判定とその要因の追究・把握（手立てを生み出した考え方の妥当性の検討、手立ての有効性（成否）にかかわる要因の多面的な探究）】
- ⑤ 有効性のあった手立てとその有効性をもたらす根拠となった考え方、残された課題等を共有し、その後の実践につなぎ、「有効な手段を生み出した考え方の真意を更に確認する」「残された課題をその後の実践で解決する中で、有効な手立てを生み出す新たな考え方を見出す」「更に充実したものとしていく考え方を獲得し発展させる。」「別の角度から有効な手立てを探る考え方を獲得し、新たな手立てを探り試行し、検証する。」など、研究を深める。
- ⑥ そのような実践の有機的な積み重ねにより、日常の授業実践に生きる学校としての基本的な考え方（原理）を確立する。

視点研究を組織的な校内研究として深めていくための具体的な手だてとして考えられること・・・

★ 一つ一つの実践で「こんなことを位置付けてみたら、こんなところがよかった」というようなことを単に繰り返すだけでは、研究は深まらない。視点に沿った一つ一つの実践の有効性とその根拠を明らかにする営みを積み重ねることにより、研究の視点に沿って何らかの考え方（原理）を獲得するための見通しをもった取組ができるようにしたい。

★ 視点研究は、視点に関する何らかの考え方（原理）を組織的に見出していこうとする取組（有効な実践を生み出した考え方の共通点を確認し合ったり、修正し合ったり、不足するところを補い合ったりしながら）である。従って、取組に対するイメージまでもしっかりと共有できるように、視点は出来る限り焦点化されたものとしたい。

例えば、「発問の工夫」といった漠然としたものではなく、「物語文の読み取りの指導における単位時間ごとの中心となる発問の工夫」といったように焦点化し、工夫した実践を提案し合い、それぞれの実践の有効性とそれを導き出した根拠を組織的に検討することを積み重ねていく中で、「中心となる発問を工夫するためには、〇〇することが重要である」といったような日常の実践に敷衍（ふえん）する考え（原理）を見出すことこそが視点研究だと考える。そこにこそ、組織的実践の意義があるのである。

「〇〇は有効だった」と効果が見られた手立てを並べるだけでは、個人的実践の単なる寄せ集めであり、組織的研究の成果とは言えないのである。

★ ある意味で、視点研究は、仮説検証型の実践の積み重ねなのかもしれない。

参考資料2

視点に関する有効な手だてを導き出す考え方とその根拠を（H23～H25）をまとめ、日々の授業に生かしている。

<視点1> 道徳の時間における指導過程の工夫【特に、発問形態や発問構成の在り方】

有効な考え方	根 拠
① 挿絵や場面絵を提示することは、登場人物の気持ちに共感させるのに有効である。	資料の場面把握に役立つ。
② ペーパーサートを活用することは、登場人物の心情に自我関与させるのに有効である。	誰の気持ちになって考えればいいのかを明確にすることができる。
③ 考える視点を一人に絞った発問構成が有効である ~~~~~ ===中略=== ~~~~~	考える視点が焦点化され価値に対する多様な価値観を引き出せる。
④ 発問に対する発言の内容が重なってしまうことを避けるために、一つ一つの発問の意図を明確にしていくことが必要である。	一つ一つの発問の意図を明確にすることで、引き出したい子どもの反応を詳細に予想することができる。
⑤ 考える視点を一人の登場人物に絞った発問構成が有効である。	一人の登場人物に絞って考えることで、児童がその人物になりきって深く心情を考えることができる。
⑥ 発問の有効性を高めるには、「切り返しの発問」や補足をして、「他にないかな」と全体に投げ返すことが必要である。	切り返しの発問や補足をすることで、広がりや深まりのある話合いが可能となり、ねらいにせまることができる。

<視点2> 道徳の時間における内面的交流のさせ方の工夫【特に、書く活動や話し合い活動の在り方】

有効な考え方	根 拠
① 心バロメーターを板書に生かすことは、自他の考を比較しながら話し合うのに有効である。	主体的に話し合いに参加しようとする意識が高まる。
② 子どもの考え（書いたこと）を把握した上での意図的指名は、話し合いを深めるのに有効である。	多様な価値観を引き出すことができる。
③ ハンドサインによる意図的指名は友達のを聞いて比較したり深めたりするのに有効である。 ~~~~~ ===中略=== ~~~~~	友達の意見を聞きながら自分の立場を明らかにして発言することができる。
④ 振り返りを充実させるために、展開前段を充実させることが必要である。また、振り返りの時間を十分に取って、自己を見つめさせることが大切である。	展開前段で、その気になって登場人物に自我関与ができれば、子どもの意識は、その気になって自己を振り返ることへと連動する。
⑤ 気持ちメーター（可動式円グラフ）の活用は、根拠のある話し合いをするのに有効である。	異なる二つの考えについて、自分の考える割合を操作し表現することで視覚的に価値観の違いがとらえやすい。
⑥ 意図的指名は多様な価値観に触れさせるのに有効である。	思考の流れをスムーズにし、友達との考えを比較しやすい。
⑦ 相互指名は、友達との考えの比較をするのに有効である。	主体的に聞く意識が高まる。

★5：指導過程の中に仮説を位置付けている

＜石巻市立大街道小学校 第1学年「国語」の指導案から＞

7 本時の指導（本時5／8）

- (1) 省略
- (2) 授業にあたって

段階	手立て
展開	・上手な話し方・聞き方の具体例を示しながら，質問・応答する活動を取り入れる。 (②-1)
	・発表しやすい場の設定として，ペアやグループなど少人数での活動を多く取り入れる。 (②-2)

(3) 学習過程

	主な学習活動【手だて】	予想される児童の反応	・主な留意点 ○評価の観点（方法）
導入 (5分)	1 本時の学習課題を知る。	・早くクイズを出したいな。	・これまでの学習を踏まえて，グループ内でクイズを出して話し合う練習をすることを伝え，意欲を高める。
	あいてのはなしを しっかりきいて，しつもんしたりこたえたりしよう。		
展 開 (35分)	3 代表グループの話し合う様子を見て，練習の仕方を確認する。【手立て②-1】	・相手の話をしっかり聞いて質問したり答えたりすればいいんだね。	・クイズを出す人・答える人という役割を意識して話し合うことができるように，名札を付けさせる。
	① はじめのペアがクイズを出し合う もう一組のペアは話を聞いて，質問や答えに困っているときにはアドバイスをする。	・答えが分からないよ。	・適切な質問の仕方やその答え方に困っているときには，話題に沿ってテンポよく話し合うことができるように，もう一組のペアがアドバイスするよう指示する。
	② 役割を交代して同じように行う。	・○○○（質問）	・どのような質問をしたらよいか困ったときには，前時までに学習した「ヒントの観点」の掲示物を見ながら質問を考えるとよいことを言う。
	③ ペアを交代して同じように行う。		
	★2回目の練習からは立ってクイズを出し合う。		
	4 グループごとに順番にクイズを出して，話し合う練習をする。【手立て②-2】		
	上手にクイズを出し合えるように，たくさん練習をしましょう。		

指導過程への明確な位置付け

指導過程への明確な位置付け

1 単位時間の具体的な手だては，1～3つぐらいにして検証を深める。

★6：手だてに基づき、焦点化（参観のポイントを示す）した検討会を行っている

<東松島市立矢本西小学校の例>

<h1 style="margin: 0;">校内研究</h1> <p style="margin: 0;">YAMOTONISHI</p>	<p>平成26年度 東松島市立矢本西小学校 No.3 H26.6.1</p>
--	--

中学年部の研究目標

仮説	目指す児童像	具体的な姿	手立て
語句を手掛かりに、段落や構成を意識した読みを進め	段落の内容や結び付きを考えながら読み	キーワードを手掛かりに、段落の内容を捉えることが	・挿絵の活用 ・キーワード、指示語、

分科会で手だてに焦点を当てた話し合いが行われている。

分科会

□手だてについて課題と方策が明確になっている□

仮説1「目的を明確にした音読の活用」				
授業での手立て	分絵	成果○	課題▲	具体的な方策
<p>・目的意識を明確にした音読の活用。</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>手だてが2つに絞られている</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p>	1	○読みの工夫や強弱があり、効果的な音読がなされた。	▲誤読はその都度訂正する。	→パターンを変えた音読。 →辞書の活用で、語句への関心を高める。
	2	○ねらいと目的を持った音読指導がなされた。	▲音読は正しく。	
	3	○「音読さん（認め合い）」が次の意欲付けになる。	▲子どもの思考を止めないタイミング	→まとめの音読で取り入れては取り入れては…。
	4	○「音読さん」で相互評価、自分の意見の発表。 ○重要語句の見つけ方。 ○範読の工夫。	▲相互評価に時間が取られた。	→時間や人数を決める。
仮説2「文章構成を捉えられるような学習展開の工夫」				
授業での手立て	分絵	成果○	課題▲	具体的な方策
<p>・文章構成を捉えられるような学習展開の工夫</p>	1	○動作化はよかった。	▲より正確な動作化をさせる。	→言葉や文に戻って確認。 →教師主導から自力で要約する力の育成を図る。 →書く時間の精選を。
		○動作化と説明の一致で		

・・・以下省略・・・

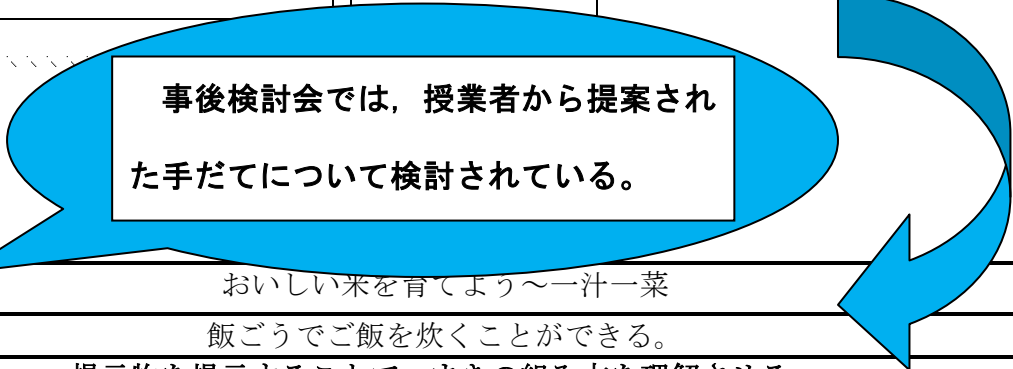
□分科会を基に全体会で共通理解が図られている□

全体会 の記録より

- 音読について
 - ・音読の相互評価は、子どもたちの人間関係にも影響する（ほめられる子はいつもほめられ、ほめられない子は・・・）ので、つまづく子への意欲付けをしてほしい。
 - ・目ざらし読み（声と目で追う文字のずれ、目は先の文字を追う）が効果的である。
 - ・音読と黙読…4年前半までは音読の方が読み取れ、後半からは黙読の方が効果的である。
- 文章構成の学習について
 - ・要約はさせることで学ぶ、繰り返し経験させる。今回は、要約の仕方を教えるパターン化された学習であった。子どもたちの目的意識が弱くなるので、目的や必要感のある要約をさせていく。
 - ・多様な目的や相手を意識させ、要約をさせる。例えば「1分間で…」→大事な言葉に目が行く。

＜石巻市立石巻小学校 校内授業研究会から＞

段階	学習活動 主な発問・指示・説明	・予想される 児童の反応	○指導上の留意点
展開 ① 13 分	<p>2 まきの組み方について知る。</p> <p>まずまきを組んでいきます。太いまき、細いまき、どちらから組んでいったらいいですか。それはなぜですか。</p>	<p>手だて 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの並べ方 ・まきとまきが重ならないようにすると、空気がよく通るから。 	<p>○細いまきの方が、着火しやすいことを知識としてしっかり押さえさせる。</p>
	<p>(写真を提示して) A・B どちらのまきの組み方がもえやすいですか。それはなぜですか。</p>		<p>【目指す児童像(1)に迫る手立て】 ①Aの写真(空気の通り道を確保して並べる)、Bの写真(隙間なく並べる)を提示し、正しいまきの組み方を押さえさせる。</p>
	<p>(写真を提示して) 1段目、2段目とこのように3段組んでいきます。そして、薪を組んだ網の下に、火をつける新聞紙を入れます。マッチで火をつける時は、新聞紙の端につけます。</p>		<p>○新聞紙のどこに火をつけるとよいか、マッチを擦る時の体勢についても説明する。</p>
	<p>ご飯が炊ける途中で、3つの変化が見られます。1つ目は、湯気が見えます。2つ目は、ふきこぼれ始めます。3つ目は、ふきこぼれが終わります。完全にふきこぼれが終わったと感じたら、念のため30数え、横のブロックに下ろしてしばらく蒸らします。それが、「赤子泣いても蓋とるな」ということで、ふっくら炊けるコツです。</p>	<p>手だて 2</p>	<p>【目指す児童像(1)に迫る手立て】 ②3つの変化をよく観察して、火力を調節することを押さえさせる。</p> <p>○3つの変化をイメージしやすくするために、図や写真を提示しながら説明する。</p> <p>○飯ごうのどの部分に湯気やふきこぼれが見られるか、・・・</p>



事後検討会の記録

小単元名	おいしい米を育てよう～汁一菜
本時のねらい	飯ごうでご飯を炊くことができる。
手だて 1	<p>掲示物を提示することで、まきの組み方を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真で提示したことで、説明が簡潔になり分かりやすかった。 ○ AとBの組み方の比較も良かった。 ○ 教室で確認したことで、外での活動の仕方を理解して取り組めた。 ● まきに火がつかなかった時のことも確認しておく良かった。
手だて 2	<p>3つの変化に気付かせながら、炊飯に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室での説明を受けて子どもたちはしっかりイメージをもつことができ、3つの変化についてのつぶやきがたくさん出てきた。 ○ 3つの変化をグループのみんなで判断しており、弱火にするタイミングを決めることができている。 ● 3つの変化が飯ごうのどの部分に見られるか、視覚的にポイントが分かるような掲示物があるとよい。 ● 児童はどの時点で「中ぱっぱ(強火)」なのか判断するのが難しかった。強火がどれくらい火力か分かるような掲示物があると良い。

＜石巻市立石巻小学校の「食育だより」＞

校内研究の内容を「食育だより」として、家庭にも知らせている。学校教育は家庭との連携が必要である。学校の取組を発信することは重要だと考える。

先生方全員で書いていることも協同研究の推進につながる！

「食」を大切にす児童の育成 ～学校における食に関する指導と家庭・地域との連携を通して～

食育だより

研究だより
【第12号】
平成26年7月2日(水)
石巻市立石巻小学校
文責：村上 幸平

家庭でできる！こんなお手伝い

- 低学年・・・配膳、箸並べ、テーブル拭き、後片付けなど、食事の準備・片付けに取り組ませてください。1年生も給食準備が手際良くできるようになりました。
- 中学年・・・食器洗い、湯沸し、包丁やピーラーを使った簡単な調理など、調理器具の使い方に親しませてください。
- 高学年・・・家庭科では、1食分を作る調理実習があります。讀めるためにも、調理から片付けまで取り組ませてく



「食」を大切にす児童の育成 ～学校における食に関する指導と家庭・地域との連携を通して～

食育だより

研究だより
【第15号】
平成26年7月17日(木)
石巻市立石巻小学校
文責：石森 知子
：山本 敏行

「生き生き石小っ子リーフレット」のご活用を

お子さんと話し合っ、て、「我が家のめあて」を記入してくだいところに掲示し、継続して取り組ませてください。

☆進んで手伝い

進んで手伝いや料理をしましょう。家族の役に

「食」を大切にす児童の育成 ～学校における食に関する指導と家庭・地域との連携を通して～

食育だより

研究だより
【第16号】
平成26年7月18日(金)
石巻市立石巻小学校
文責：佐々木 麻子

ほくもわたしもげんきもりもり(学報活動：1年1組)

小学校に入学して初めての夏休みを迎える1年生。給食の準備にもすっかり慣れて、楽しく給食を食べています。
今回は、1年1組の子どもたちが、伊藤久美先生と「元気もりもりになるために、どのように食事をするのが大事なのか」「食べ物色の赤・黄・緑の働き」などについての学習を行いました。
子どもたちの給食のメニューを考えている栄養教諭の今先生にもおいでいただき、専門的な栄養についてのお話もいただきました。



みんなはどんなものがにがてかな？



「しいたけ」は緑の仲間かな？
緑の仲間はどんな働き？

ほく・わたしのがんばる宣言

- これからは もっとみどりのなごまを たべます。なせなら、けんこうなからだで いたいからです。
- せいちょうするために、きゅうしょくでもびーまんのこさずたべます。
- にがてなゴーヤを たべられるようになりたいです。(授業中の子どもたちの感想より)



きつねさんは、ごはんがすくないよ。

7月2日(水)学習参観日に3・4組では、1学期にがんばったことを発表した後、茶道の体験をしました。お茶やお菓子のいただき方や、また、お茶の点て方を学習しました。友達同士でお茶を点てたり、家の方にお茶をすすめたりしました。インタビューで「とてもおいしかったです。」とコメントしていただきました。とてもうれしそうでした。

「今回は、3・4組の取り組みについてお知らせします。」 おうちの方にお茶を点てよう



きゅうりの漬け物作り

「きゅうりを輪切りにしたり、ななめ切りにしたりする練習をしました。調理器具の名前や切り方、包丁の扱い方にも慣れてきました。塩のて塩もみを作りました。おいしくできました。



朝食を考えよう(6年生：家庭科) -

「香」栄養のバランスがとれた朝食のおかきました。いり卵にトマトを添えました。3調理計画に沿って、練習をしました。友達とコンビを組んで、調理の主になっ「スタント」になったりしながら、野菜炒め「せました。ぜひ、家族にも作ってあげた「をみせていました。



花山宿泊学習(5年：野外炊飯) -

「22～24日に行われた、花山宿「学習では、5年生が野外炊飯の活「ーライスを作りました。昨年の蔵「験もあり、ビックリするほど手際「しいカレーライスが出来上がりま「まで学んできたことが、しっかり「いているんだ、と感心しました。



児童の感想や考えが分かる内容の記載も見られ、家庭での会話に生かされると考えられる。

★8：授業研究会の質的深まりを目指し、次の授業研究会につなげている

＜石巻市立大街道小学校の例＞

課題のリレーがしっかりと行われている！

授業研究部研究便り「こっちむいて」NO. 1に「成果と課題」が視点にそって書かれている。その課題を次の授業者が引き継ぎ改善されていることが授業研究部研究便り「こっちむいて」NO. 2から分かる。このように課題のリレーが行われることによって、校内研究が共同研究として深められ、授業力の向上が図られる。

関係する部分のみを抜粋

こっちむいて



石巻市立大街道小学校
授業研究部研究便り
No.1
H26. 6. 30

場面に気をつけて読もう「お手紙」～2年2組 水野先生お疲れ様です！～

このお便りを参考に次の授業への新たな見通しと課題を共有できたらと思っています。

成果と課題 (○成果, ★課題)

【手立て①-1】

○サイドラインを引くことは有効だった。もっと有効な手立てとするためには、大事な言葉を引き出せる声掛けがあるといい。

【手立て①-2】

○★学習カードが工夫されていたため、子供たちは自分の考えと友達との考えの違いを意識して聞いていた。ただ、子供たちが短時間で書けるものの方が良い。

★友達の考えと比べて△と○で表現させるだけではなく、「どうして違うのか」「どこが違うのか」など違いを深められるようにしていくといい。発表の仕方を常日頃から指導していくといい。(朝の会のスピーチ等)

【手立て②-2】

○「ゆっくり」「はやく」などの言葉が子供たちから出ていて、学習訓練がされていた。

「音読練習」と「うまく読むための話し合い」を繰り返すことで、伝え合う力を高めていきたかった。(自評)

昨年度の校内研の反省を生かし、「書く活動」の時間を短くし、「話す活動」を長めにとることを意識して行った。(自評)

こっちむいて



石巻市立大街道小学校
授業研究部研究便り
No.2
H26. 9. 30

人物の気持ちを考えながら読もう「サーカスのライオン」～3年1組 遠藤真樹先生～



根拠となる文にサイドラインを引かせ、文図と照らし合わせることは児童にとって自分の考えをもつために有効な手立てだった。

じんごの気持ちになって、学習カードに記入し、意見を交流していました。じんごが火の中へ助けに行く心情をだれもが大切に読み取っていました。



成果と課題 (○成果, ★課題)

○サイドラインを引き、自分の考えをもつことでじんごの気持ちをよく考えることができた。

○流れの沿って気持ちを読み取ろうとしたり、気持ちの移り変わりを押さえようとしていたことがよかった。

○これまでの学習の分図が掲示されていてよかった。発問したときに振り返っていることもよかった。

○意図的指名で読みが深まり、全体での交流があった。

○考えを学習カードに書き、友達と意見の交換ができたのがよかった。

★サイドラインの有効性は確認できたのでサイドラインを読み取りの観点別に種類分けし、学年で統一するとよかった。

★前半部分に時間がかかりすぎたので時間配分を考え、感想を述べ合うなどの交流の時間を増やす工夫が必要だった。また、多様な読みを取り上げ、一人一人の考え方に違いがあることを交流する時間を作ることも大切であった。